

「東京ベイエリアビジョン」（仮称）の検討に係る官民連携チーム  
ワーキンググループ（第6回）議事要旨

**魅力あるまちづくりWG**

日時：平成31年4月26日（金） 14時00分～17時15分

場所：都庁第一本庁舎 11階11A会議室

＜WGでの主な意見＞

- ・ベイエリアでの取組の優先順位として、公有地の利活用は取り組みやすい。期間を決めた暫定利用という形で、仮設によるスポーツ施設や商業施設、スポーツ文化定着のためのエキシビジョン施設などで利活用し、最終的に恒久施設の整備を目指せば良い
- ・スポーツ文化の定着を目指すために、子供がプロスポーツ選手と空間を共有できるような場所を生み出したい。例えば、プロサッカーチームに試合前の練習スペースとして無償で施設を利用してもらい、すぐ側で子供がサッカーをしているなど
- ・人が集まる臨海副都心などではクライミングやスリーオンスリーなど、比較的小さなスペースでも出来るスポーツの練習施設や、エキシビジョン空間などを仮設で展開する。月や季節、流行に応じて施設を造り変えれば良い
- ・ベイエリア内の交通手段として、有明や台場、青海の間だけでも乗り捨て自由な電動スクーターなどを導入できれば良い。誰でも手軽に利用出来て、乗り捨て自由など、利用方法がシンプルであることに利便性がある  
あわせて、日本では電動スクーターは原動機付自転車扱いで、車道走行や免許、ヘルメットが求められるが、ベイエリア内の特にシンボルプロムナード内などは特別にそういった規制を外すなど工夫できればよい
- ・エリア間をつなぐ方法として、内海を取り囲むモビリティルート（自転車などが走行可能）を設けて、回遊性を生み出す。将来的には前述の電動スクーターや新たなパーソナルモビリティが免許などの規制無く移動できる姿が実現できれば良い
- ・水辺の活用方法として、親水性の強化、魅力ある施設の水際への立地、水上を活用した集客施設（水上ホテル等）など水域の特性に応じてパターンが複数あり得る
- ・水際へのアクセスを良くする観点で、水際に近い道路の利用形態を柔軟にする必要がある。将来的な廃道や、曜日限定の歩行者空間化、道路上部へのデッキ設置や既存商業施設の屋外店舗化などが考え得る
- ・モビリティルート整備や水辺の活用、水際へのアクセス性向上に加え、舟運でベイ

エリアの域内同士や、都心とベイエリア間を往来できれば良い。品川エリアとベイエリアをロープウェイで結ぶなど、エンタメ性と都心からのアクセス性を両立できる移動形態があると良い

- ベイエリアの中では台場や青海地区が人を集める機能を担うことになるため、デザインミュージアムや MICE 施設などが必要。IR というスキームを活用して、エンタメ施設や MICE 施設集積、公園と建物の一体整備、水際への魅力ある施設立地など既存の仕組みではハードルが高いような取組を実現したい
- 青海を文化・エンタメや MICE 拠点とする場合にも、他の文化・エンタメ施設や MICE 施設との競争や都市間競争を踏まえれば、最先端技術の組み合わせや、日本の強みである食文化、デザインを活かした独自性を打ち出すべき
- 食文化というテーマでは屋上利用の農業や、水耕栽培などベイエリアならではの農業への取組なども MICE 施設のような集客装置と相乗効果を生むのではないか。ビジネスとしても農業は注目すべきである

#### <本日の議論のまとめ>

- 次回の WG に向け、本日の議論を盛り込みつつ、最終提案資料の案を作成する

## **活力と躍動感のあるまちWG**

日時：平成31年4月24日（水） 14時30分～17時15分

場所：都庁第一本庁舎11階 11A会議室

### **<WGでの主な意見>**

#### **【環境】**

- ・環境啓発のアイコンとして、あらゆる機能を集積した生態系ツリーをつくりたい
- ・「水・空気・土」に関する環境学習の場があると良い。全ての公立小中の花壇に最先端の土壌が入っているなど、行政の公共施設・関連施設が率先して取り組めると良い
- ・環境要素として「水・空気・土」の再生技術、啓発に取り組み、それらが1つに集まったものが生態系ツリー。その技術は地域社会や海外などまわりに波及していくことが求められる、というストーリー
- ・水再生などの環境技術は、日本が最先端を進んでいるものもある。既存施設の改良も含めて、一般の方々が環境学習できるよう、カフェを併設した水再生ギャラリーを作るなど、「見せる産業施設（技術のショーケース）」を用意できると良い

#### **【スポーツ】**

- ・「心身の健康を実現する滞在型ウェルネスのまち」をベイエリアで構築し、食事・トレーニング・宿泊など、心と身体健康増進につながる産業の一大拠点にしたい
- ・エンタメ型スポーツ、マイノリティスポーツなどを一つに場所に融合し、ホテル併設型で多様なスポーツが混在して楽しめる場所があると良い
- ・ショーとして劇場的に観客を集めて魅せるスポーツは台場地区、ウェルネスと結びつくスポーツは有明地区、というように立地でスポーツを分けるのも面白い
- ・スポーツに特化した学校、幼稚園をつくるなどにより、子どもたちが日々走っている姿があると、エリアに活気が出てくる
- ・スポーツの人を優先した道路や信号や、道路脇にデザインされた給水所を設けるなど、ランナー目線でランニングコースを使ってもらおう仕掛けがあると面白い

#### **【その他】**

- ・常設ではなく期間限定でアートギャラリーを水辺に展示することで、フォトスポットになるとともに、水辺のランニングコースの魅力の1つになる
- ・四季がはっきりしている日本の特徴を生かし、四季ごとのシーズンにまつわる展示会やマッピングギャラリーを作りたい

※本WGの開催は、今回で終了

## **最先端技術のまちWG**

日時：平成31年6月3日（月） 11時00分～12時30分

場所：(株) Preferred Networks 本社会議室（大手町ビル 3F）

### **<WGでの主な意見>**

- ・ベイエリアの中ではCTO（最高技術責任者）を民主的に選び、技術的な立ち位置を決めて、考え方を示していくことが重要
- ・「既存の概念にとらわれず、自由な活動が確保されたまち」というキャッチフレーズの部分をもう少し刺さる内容で書いた方が良い。どう確保されているのか、データやハードはどうなっているのか、納税はどうか。キーワード的には、「個人のアイデアの内容に応じて制約の条件が変わる」という感じになる
- ・審査はあるが家賃は安く、設備は整っているラボ的空間があちらこちらにあり、掃除もやってくれる、そんな世界観があれば、人は溜まると思う
- ・アジャイルマニフェスト、プロセスより個人との会話、ドキュメントより動くソフトウェア、経営企画に従うより変化に対応、そんな理念が重要
- ・アリーナ等、交通機関は足りているのか。破綻すると、人がかえって寄り付かなくなることが心配である。人を集める以上、交通機関の輸送力については、オリンピック後には重要な課題となる
- ・ロボットコンテストなどの競争ができるようなエリアにしたい。小学生の頃から産業用ロボットやe-スポーツに触れられる環境があると良い
- ・環境や経済の方の意味が強い、「持続可能」という言葉に替わる良い言葉はないか。東京ベイエリアならではの「サステイナビリティ・ショーケース」のような表現の方が分かりやすい
- ・ハイテクなのに豊かな漁場があるサステイナブルなベイエリア、漁場を守るというような視点があっても良い

※本WGの開催は、今回で終了